

「誰もボクを見ていない」 ～17歳少年の祖父母殺害事件取材して

2014年3月、川口市で発生した17歳少年による祖父母殺害事件。少年はなぜ凄惨な犯行に及んだのか？ 誰にも止めることはできなかったのか？ 少年犯罪の本質に深く切り込んだノンフィクション「誰もボクを見ていない」の著書で毎日新聞記者の山寺香さんが語る。

日時:2017年12月9日(土)
14時～16時30分

やまでら かおる

ゲスト:山寺香さん 毎日新聞記者

山梨県生まれ。2003年毎日新聞社入社。仙台支局、東京本社夕刊編集部、同生活報道部を経て、2014年4月からさいたま支局。事件・裁判担当だった同年12月に17歳の少年による祖父母殺害事件の裁判員裁判を傍聴し、取材を始める。犯罪被害者支援や自殺対策、貧困問題などに関心があり、取材してきた。著書に「誰もボクを見ていない」(ポプラ社)、共著(取材班の一員として)に「リアル30's “生きづらさ”を理解するために」(毎日新聞出版)など。



会場:カフェギャラリー南風 蔵の家

みなかぜ
さいたま市中央区本町西2-2-24
048-764-8850
埼京線与野本町西口徒歩7分
無料駐車場近隣にあり

会費:1,000円

コーヒーorジュース付き

申&問:090-2173-2591

office@sai-tama.jp



埼玉県には古くから独自の歴史と文化があります。この埼玉がより一層活性化、発展するために、地域に根ざした多様で「市民に開かれたメディア」の存在と活躍が不可欠です。今一度、多くのみなさんと、ジャーナリズム、メディアリテラシー、地域文化の育成などの課題を、この『埼玉・市民ジャーナリズム講座』の場を通じて共に考え、情報発信していきたいと考えています。この企画は地元・地方紙「埼玉新聞」の紙面協力のもと2014年3月から取り組んでいます。どなたでも参加できますので、お待ちしております。